

年間第4主日A
「幸いです。貧しい人々は」 山上の説教

マタイ5・1-12a

今日、私たちは、福音書の中で、イエスの最も偉大な説教を聞きました。聖アウグスティヌスはこの説教を「山上の説教」と名付けました。

「山上」という言葉から、多くの人々はイエスが山の斜面のようなところから群衆に語りかける姿を思い浮かべると思います。けれども、私は数年前に二度ガリラヤ湖を訪れたことがあります。イエス様は湖の北側にある小高い丘の上からこのメッセージを語られたのだと思います。イエス様は、丘の上に座って説教されました。イエス様の周りを取り囲んでいる多くの人々に、語りかけるように話をする事ができたのです。

今日は、この説教の最初のメッセージである「幸いの教え」に焦点を当てたいと思います。「山上の説教」では最初に「八つの幸い」が語られます。(マタイ5. 3-10)。

この八つの『幸い』はすべて、ギリシャ語原文では「祝福された」という言葉で始まります。すなわち「Μακάριοςマカリオス」です。日本語では「幸い」と訳されます。ギリシャ語の「Μακάριοςマカリオス」は「神によって靈的に認められる」ことを意味します。

神が「幸いだ」と祝福する者は、神に靈的に認められた人なのです。その人は幸せな人です。なぜなら神の承認がその人の上にあるからです。神が靈的に認めてくださるからこそ幸せなのです。祝福されたとは、「おめでとう」とも訳されます。

それでは、どのような人が「幸いだ」、「おめでとう」と言われたのでしょうか。丘の周りに集まっていた多くの貧しい人々ですね。

「心の貧しい人々は幸いである、天の国はその人たちのものである」。

この言葉を聞いた貧しい人々は、これまで貧しくて、何もいいことがなかった、しかし、イエス様は幸いだと言ってくださった、神は私たちを認めてくださっているんだ、と喜びに満たされました。

今日は、「山上の説教」の最初の「幸いの教え」から二つことを考えたいと思います。一つは貧しいひとびとに対する祝福です。ルカ福音では「心の貧しい」ではなく、「貧しい人々は、幸いである」(ルカ6. 20)と物質的に貧しい人々が祝福されています。

ここでイエスは、ご自身を貧しい人々に福音を告げるために神から遣わされたメッセンジャーとして自らを提示されています。貧しい人々、不幸な人々、病める人々への配慮が、イエスの使命なのです。

ここで語りかけられている人々は、物質的に貧しい人々だけでなく、すべての肉体的、精神的に不幸な人々にまで及んでいます。

これらの貧しい人々は神に見捨てられているのではなく、神に認められている、だから幸いだと語りかけられたのです。

現代においてこの「幸いの教え」にはどのような意味があるのでしょうか？ 成功することや権力を持つことが幸福であることの基準になっている現代社会で、イエスのメッセージにはどんな意味があるのでしょうか？ また、貧しい状態におかれ発展途上の国々で、抑圧された世界の中で、イエスのメッセージにどんな意味があるのでしょうか？

今日、私たちが思い起こしたいのは、「幸いの教え」を語られた神の子イエス様ご自身が貧しい人になってくださったことです。彼は神でありながら、私たちのためにご自分を貧しくし、へりくだってくださいましたのです。福音書には、誕生の時から宿屋に居場所がなく、休むために頭を置く石もなく、貧しく、裸で十字架につけられて死んでくださったイエスが描かれています。イエスはご自分のすべてを他の人にささげ、十字架にかかることによって私たちに救ってくださいましたのです。

もう一つ考えたいことは「幸いの教え」でイエスが語られた「心の貧しさ」という言葉の意味です。「心の貧しさ」とは、靈的に貧しい、という意味です。

「心の貧しさ」は、「謙虚であること」と理解されることもありましたが、聖書で言う「靈的に貧しい」とは、「信仰において貧しい」、「信仰がない」という意味です。その「靈的に貧しい」ことが、神から靈的に承認されるということを指します。

「山上の説教」を聞いた多くの人々は、当時の宗教的指導たちから「信仰のない者」とみなされ、差別されていました。しかし、イエス様は、その多くの人々に、あなたがたは神から靈的に認められている、天の国はあなたがたのものだと語り掛けられ、祝福されたのです。

いま、世界中に、自分には価値がないと感じている人々が多くいます。この世の制度に打ちのめされている人々が多くいます。しかし、イエス様は「靈的に貧しい人々は幸いだ」とかたりかけてくださっているのです。

この語りかけを聞くとき、彼らは希望を持つことができます。彼らには、天の国が与えられていると知ることができるのです。

私たちは、靈的に貧しい人々ではないでしょうか。時には、絶望や無力感を感じることもあります。時には、私たちは世俗的なものに信じる心を破壊され、何をしても意味がないと徒労感を持つことがあります。疲労感を感じます。

今日、私たちは、無力感や絶望感の中にあっても、「幸いだ。靈的に貧しい人々よ」というイエス様の語りかけを聞き、希望を持つことができるのです。私たちもイエス様を取り囲み、イエス様のそばで「幸いの教え」を聞き取ることができるように祈りましょう。わたしたちは自分の小ささを受け入れ、人間の能力を信じるのではなく、神様から信仰を与えていただき、神の導きに従って、人生を歩んでいけるように祈りましょう。

Lazun naw san Vincent (pime)

